

Vol.  
**80**  
2024  
SPRING

 山梨県の広報誌

# ふれあい FUREAI



リスキングの拠点「やまなしキャリアアップ・ユニバーシティ」が開講しました。詳しくはP8をご覧ください。



**【巻頭】**

**令和6年度当初予算 県民生活の強靱化を強力に推進**

## 予算のポイント

### ポイント1 「ふるさと強靱化」と『開の国』づくりの取り組みを加速・充実

令和5年度は県民生活の生活基盤を強く安心なものとする「ふるさと強靱化」と、国内外に開かれることで富を呼び込む『開の国』づくりの2つを柱に、多くの施策を具体化し実行してきました。

令和6年度はこれを加速・充実させ、全县民の手に豊かさをもれなく届ける「豊かさ共創社会」の実現に向け、これらの成果をいよいよ県民の皆さんに還元していきます。

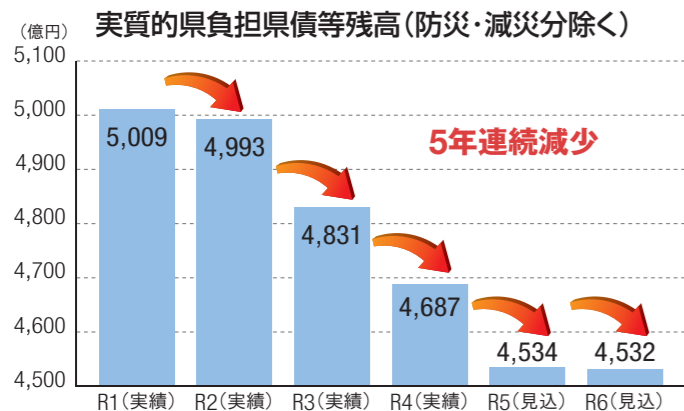
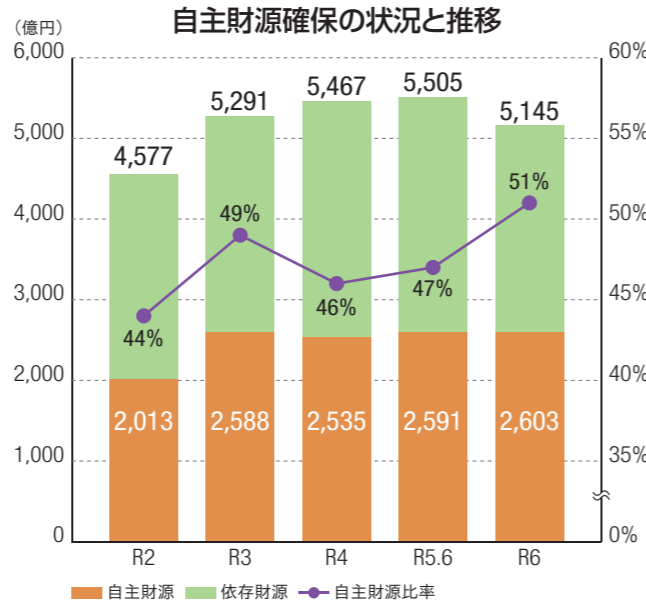
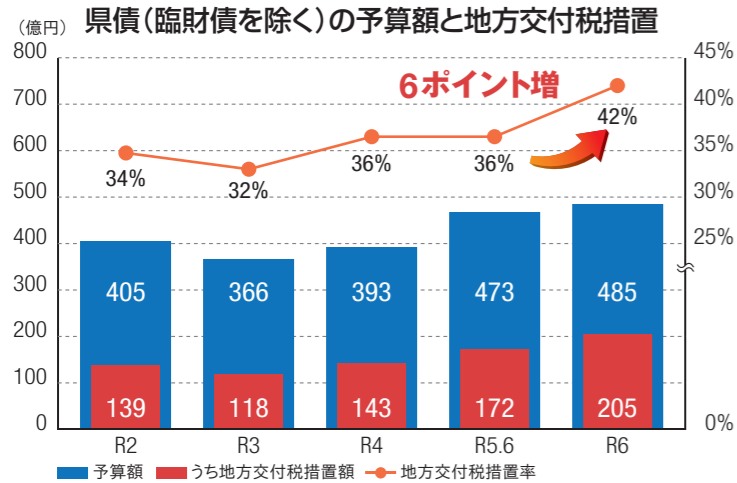
### ポイント2 防災・減災対策、人口減少危機対策、DXの推進、新たな挑戦への支援強化

令和6年1月に発生した能登半島地震を教訓に、県民の生命と財産を守るため防災・減災対策を拡充します。このほか、将来世代へ先送りのできない人口減少危機、DXの推進や新たなチャレンジなど喫緊の課題に対応する事業に積極的に予算を配分しています。その一方で、既存事業の見直しにより約10億6千万円を削減するなど、メリハリのある予算編成を行いました。

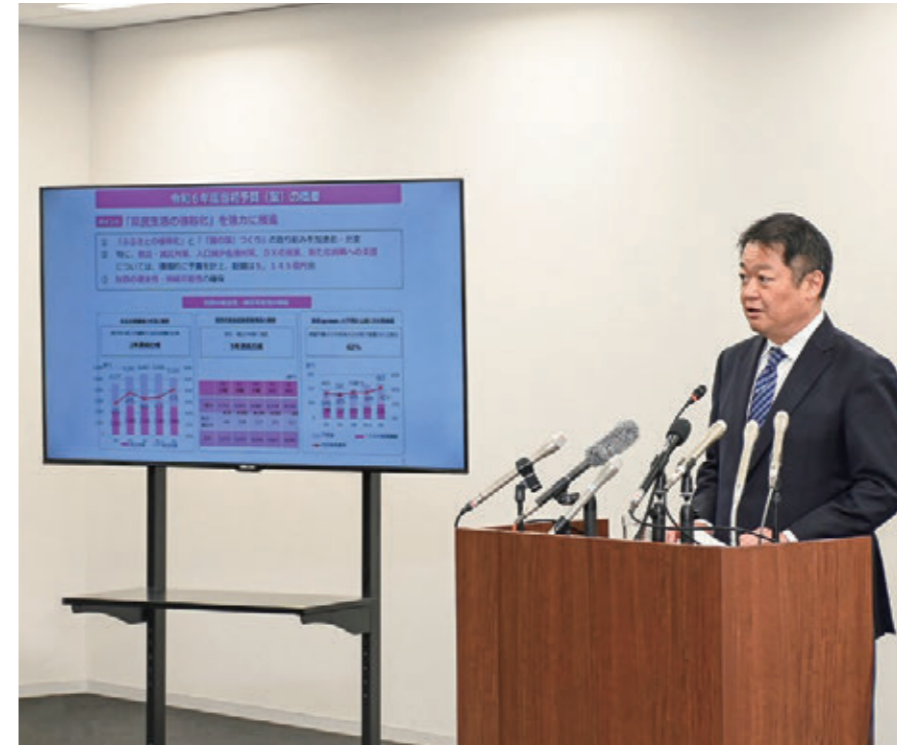
### ポイント3 財政の健全性・持続可能性の確保

積極的に事業を展開する中でも、財政の健全性はしっかり確保しています。

最小の県負担で最大の効果を上げられるよう、国の補助金や将来の県負担が少ない有利な地方債を活用するなどの工夫をしました。その結果、県債(県の借金)予算のうち国が将来負担する割合(地方交付税措置率)は42%と対前年比で6ポイント増え、また実質的に県が負担する県債残高(防災・減災分除く)は5年連続で減少しました。さらに、地方財政の健全性を示す自主財源比率(県が自ら収入を確保する率)は51%と、2年連続で増加しています。



県が自ら収入を確保する  
自主財源の比率  
2年連続の増加



記者会見で令和6年度当初予算案を説明する長崎知事

**よくわかる**

**令和6年度当初予算**

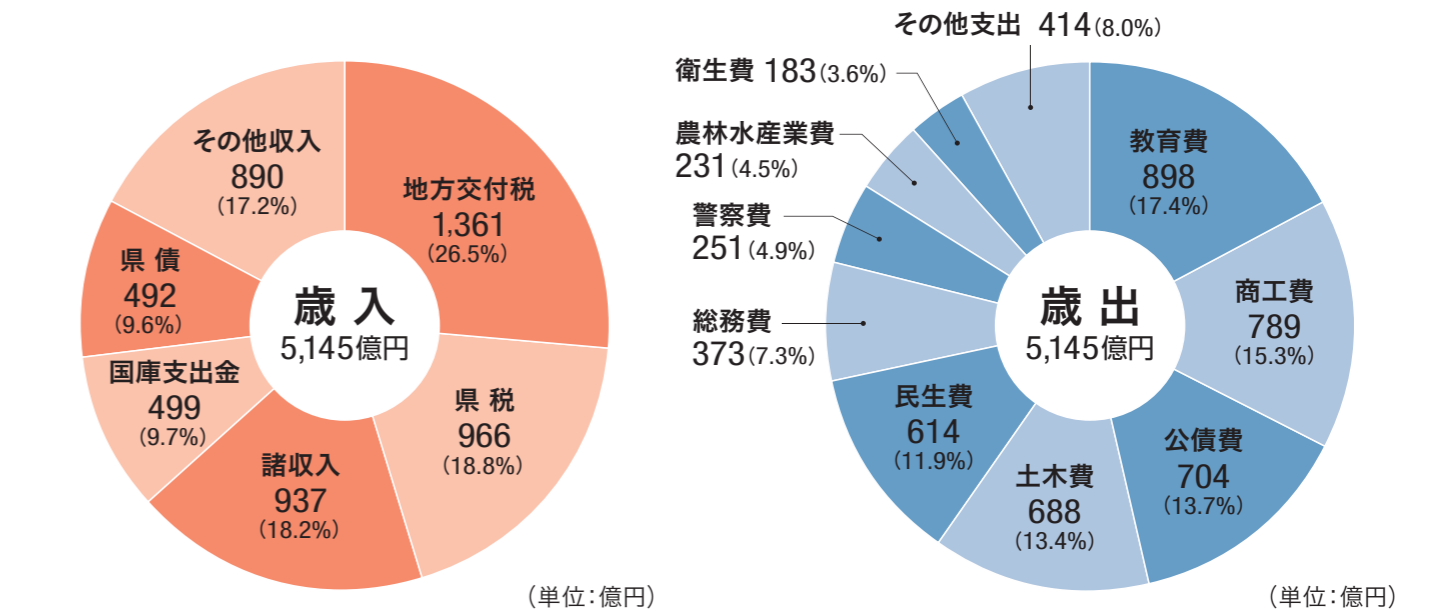
県は令和6年4月からの1年間、どんなことにいくらかお金を使うのか。その計画を示した令和6年度当初予算案を2月定例議会に提出しました。

「ふるさと強靱化」と『開の国』づくりに向けた取り組みを着実に実行し、その成果を県民の皆さんに還元するとともに、災害や経済・社会情勢の変化にも柔軟に対応できる「県民生活の強靱化」をしっかりと進めるための予算を組みました。

## 県民生活強靱化予算

～「いま」必要なことから「将来」世代の豊かさまでを創造する～

一般会計当初予算額 **5,145億円**



**地方交付税** 地方公共団体が一定の行政サービスを提供できるよう、財源が不足する団体に国が配分するお金

**県税** 県民税や事業税など、県に納められる税金

**諸収入** 県税の延滞金や預金利子、県からの貸付金の元利償還金など、他の収入科目に含まれない収入

**国庫支出金** 特定の事業の財源として国が交付するお金

**県債** 公共施設や道路の整備などの資金を調達するため、県が国や銀行などから長期にわたり借り入れるお金

**教育費** 県立学校の運営や整備などに使うお金

**商工費** 商業や工業の振興などに使うお金

**公債費** 県債の返済に使うお金

**土木費** 道路の整備や河川の改修などに使うお金

**民生費** 社会福祉や児童福祉などの事業に使うお金

**警察費** 犯罪や交通事故の防止などに使うお金

**農林水産業費** 農業、林業、水産業の振興などに使うお金

**衛生費** 健康増進や疾病予防、環境保全などに使うお金



# 県民生活や県内経済を強く安心できる社会へ

皆さんにとっての「豊かさ」とは何でしょうか。お金や時間、充実した仕事、家族との生活など、それぞれ求めるものは違います。そうした中で本県が目指すのは「県民の皆さんが一人一人異なる幸福を得るために、自分の道を選び、歩みを進めていける社会」です。「ふるさと強靱化」では、皆さんの自由な選択が妨げられない社会をつくる取り組みを進めます。自然災害の脅威はもろろん、経済的な不安定さや親の介護、保育・教育費の負担など、生活を取り巻くさまざまな不安やリスクを取り除き、安心して生活や仕事ができる環境づくりに全力を尽くします。

## 木造住宅耐震化促進など防災減災対策を強化

能登半島地震は決して対岸の火事ではなく、教訓として本県の施策に生かしていく必要があります。

石川県珠洲市などで木造住宅の倒壊が多発し、改めて建物の耐震化の重要性が認識されました。そこで県は、**自己負担なしで耐震改修できるよう市町村と協力し、補助上限額を125万円まで引き上げ、上限までは全額補助**します。山梨県内の耐震化率は8割を超えていますが、高額な改修費用などがハードルとなり、未だ約4万戸が倒壊のリスクにさらされています。耐震化をすれば、万が一規模な地震が発生しても、ご自身やご家族を危険から遠ざけることができます。

発災時に迅速かつ安定的・効率的に情報収集・共有を行うことも重要であることから、既存の伝達システムに加え、**新たに人工衛星を利用したインターネットサービス「スターリンク」を導入**します。

また、**防災・減災対策に資するインフラ整備に重点**を置き、中部横断自動車道長坂―八千穂間や県内幹線道路網の整備などにより、海と空に開かれた「開の国」の実現を図るとともに、河川の改修や<sup>しみず</sup>浸水をはじめとした流域治水対策など、事前防災対策を充実していきます。

さらに、能登半島地震で停電が長期化したことを踏まえ、**太陽光発電などの再エネを活用してエネルギーの自給自足を行う「地域マイクログリッド」の構築を促進**します。

こうした強靱化対策にしっかりと取り組み、誰もが安心して暮らすことができる「災害に強いふるさと」をつくり上げていきます。



## 人口減少危機突破に向け実行フェーズへシフト 妊娠・出産を意識したライフプランづくりを支援

若い世代に向けて、将来の妊娠・出産をイメージし、自分の健康や生活に向き合う「**プレコンセプションケア**」に関する**セミナーや健診を実施**します。また、女性の多様なキャリア形成やライフプランを応援するため、**保険適用外となっている卵子凍結費用を助成**します。さらに、将来の教育費負担への不安を払拭するため、**私立高校などに通う第3子以降の生徒について、授業料の実質無償化**を図ります。

県民の皆さんと、人口減少に関する現状や課題など危機感を共有し、本県の目指すべき将来像（人口ビジョン）について、さまざまな知恵の集積によって「**集合知**」を発揮できるよう、県民各地で意見交換の場を設けます。**現行の人口ビジョンを、県民総参加で創る「人口ビジョン2.0」に進化**させ、人口減少危機突破を県民運動へと高めていきます。



## 富士山の総合安全対策

富士山の抱える多様な課題を解決するため、**5合目での登山規制やシェルター設置、富士山信仰・御師文化を支える伝統的登山の復興に向けた調査研究**を行います。

世界遺産登録時に課された宿題の一つ「**人が多い**」。これを解決することは県の使命です。令和6年度は登山者数の管理や安全確保に全力で取り組みます。また、県施設の利用料として、**登山者一人当たり2000円を徴収し、富士山の総合安全対策の財源として活用**します。こうした取り組みにより、世界の宝である富士山を未来の世代へしっかり引き継いでいきます。



## 重度障害者向けサービスの地域偏在を解消

現在、富士・東部地域では重度の障害のある方が利用できるサービスなどが不足しています。そこで、令和7年度分の**入所施設などの整備に対して補助率を引き上げ、民間法人による早期開設を促進**します。今年度は開設する事業者の選定を行います。また、医療機関が開設する**医療型短期入所施設への介護ヘルパーの派遣や医療的ケア児支援センターのサテライト設置**を行います。併せて、入所施設などの開設までの間にも、都内のグループホームを利用する際の家賃補助などの暫定的な措置を手厚く講じることで、本人や家族の負担を極力軽減します。

サービスの地域偏在を解消し、障害のある方やその家族がより安心して生活できる環境を県内全域で整えていきます。

## 主役は大学生！ 中小企業のDXを加速

研修を受講してデジタルスキルを身に付けた大学生が、中高生へのDX指導・育成に加え、県内中小企業のDX課題に対して人工知能（AI）などを活用しながらそれぞれのニーズに合った解決策を提案・提供することで、**地域内の人材育成と中小企業のDX支援を行う「DX人材育成エコシステム」を構築**します。

これにより、中小企業などの実情やニーズに合った「**普段使い**」できるサービスを提供する「**地域内発型DX**」を実現し、県内経済を活性化できるよう、中小企業のDXをさらに加速させていきます。

## 物流の2024年問題への対応

トラックドライバーの負担を軽減するため「**置き配**」や**ゆとりある配達日時**の指定など、**再配達削減に向けた普及啓発**を行います。また**置き配を促進する条例の制定や宅配ボックス設置への補助制度の創設を検討**していきます。

4月から始まるトラックドライバーの時間外労働の上限規制に伴い、物流の停滞が危惧される「2024年問題」。何もせずに放置すると、これまで通り荷物が運べなくなる恐れがあります。物流は皆さんの生活や企業の活動を支える重要な社会インフラです。再配達削減に向けた取り組みを支援することで、安定した物流の実現を目指していきます。



## 地域経済が安定成長する 体質を獲得

今後も成長が見込まれる医療機器関連分野では、工場を持たず開発のみを行う企業と県内機械電子関連企業とのマッチングを強化し、**製造に特化したいわゆる「ファウンドリー」の医療機器版を地域全体で目指す**。また、世界最大の市場を持つ米国への進出を促します。

水素・燃料電池分野では事業化につながる人材を養成するための専門コースを開設するなど、県内企業が参入できる土壌を醸成していきます。

さらに、新たな挑戦として、今後市場の拡大が見込まれる**航空・宇宙・防衛関連産業への県内企業の参入を支援**します。

成長分野への参入は県内企業の安定した成長や収益の獲得につながります。県民の皆さんが将来の見通しに確信を持ち、安心して生活できる社会の実現を目指していきます。

## 豊かさ共創 スキルアップから賃金アップへ

働き手のリスクリングを支援する拠点「**やまなしキャリアアップ・ユニバーシティ(CUU)**」の講座をさらに**充実**させ、企業の生産性向上や社員の賃金アップに取り組みます。

地域経済を持続的に成長させるためには、働き手一人一人の能力を高めていくことが大切です。県は1月、リスクリングに関するサービス、講座情報の周知、講座の運営、相談支援などを一体的に提供するCUUを開講し、企業の人材育成をサポートしていきます。働き手のスキルアップが企業の成長を推し進め、働き手の賃金アップへつながる。こうした「**豊かさ共創の好循環**」を生み出すことにより、県民の皆さんの豊かさへとつなげていきます。



## 観光客の滞在時間を増やし 交流を生み出す

レンタカー事業者などと連携し外国人観光客の周遊観光を促します。また、デザイナーと連携した付加価値の高いお土産品の開発を支援するとともに、ムスリムやヴィーガンの方々が安心して食品を購入できるよう、専門家による指導や本県独自の食品認証制度創設を行います。

国内外から人が集まり、地域に活力を生み出す観光振興は、世界との交流を深める「『開の国』づくり」の鍵となります。国内外の観光客が安心して長く滞在できる環境を整えることで観光消費額を増加させ、観光事業者の収益向上や県民の豊かさへとつなげていきます。



## 25人学級 小学4年生にも

きめ細かな質の高い教育を実現するため、令和3年度に小学1年生から導入してきた25人の少人数学級を、令和6年度からは4年生へ拡大します。併せて導入の効果などを検証し、中学生との接続も見据えながら、5年生以降の少人数教育の在り方についても検討を進めていきます。

児童一人一人に先生の目を届きやすくすることは、子どもの可能性を最大限に伸ばし、夢や希望の実現に向かうことにつながります。将来、地域の課題解決に役立つだけでなく世界に貢献する、本県の未来を担う人材を育てる環境づくりを進めていきます。

また、25人学級の影響が及ばない小規模校においても、イェナプラン教育のような、学年を横断して学び合ったり、子どもが学習内容・方法を自分で決めて学んだりする子ども主体の教育活動を推進します。



## 外国人に「選ばれる」山梨へ 安心して働ける環境づくり

介護の人手不足を解消するとともに、外国人が活躍しやすい環境づくりに向けて、介護施設への就職を目指し日本語学校などで学ぶ外国人留学生への奨学金制度や、特定技能制度などにより介護職に就労する外国人を対象としたキャリアアップ認証制度を創設します。

また、介護分野に限らず、本県で働くベトナム人の方が安心して働けるよう、現地の保険会社と連携して、母国のご家族を医療面で支える保険制度を構築します。

国籍を問わず誰もが安心して暮らせる環境を整えることは、それぞれの個性や能力を十分に発揮し活躍できる共生社会の実現につながります。そして、本県には多様な人材が集まり、問題解決に向けて知恵を出し合うことで持続的に成長していける地域になることでしょう。



## 生産・流通・販売の三位一体の 取り組みによるブランド価値の向上

経験値に依存していた農家の匠の技を数値化し共有する「データ農業」を推進し、農産物の高品質・安定生産に取り組めます。また、県オリジナル品種のブドウ「サンシャインレッド」や赤ワイン用ブドウ「ソワノワール」などの早期産地化に向け、苗木の生産や供給に取り組めます。そのほか、花きの生産振興を図るため、今年1月に協定を締結した卸売大手の株式会社大田花きと連携し、商品価値が高い良質な花きの供給に取り組めます。

県は、生産だけでなく流通・販売の高度化を図る取り組みを一体的に進め、県産農畜水産物のブランド価値を高めていきます。このような取り組みが実を結んだ将来の山梨は、価格のみの競争から抜け出し「山梨県産の〇〇だから」という理由で選ばれる県になっていることでしょう。



## 新たな挑戦を支援 食・観光・スタートアップなど幅広い分野で

食の分野では、食材のマッチングや技術向上セミナーの開催、顧客獲得機会の提供などを通じて、若手シェフの新たな挑戦を応援します。そして、シェフが活躍する姿をPRし「若手シェフが夢を叶え成長する場所」として山梨のブランドイメージを高めていきます。

他にも、観光分野では、観光事業者が連携して地域の魅力の向上に挑戦する際の事業経費を補助します。産業分野では、テストベッドの聖地化を目指し、これまでスタートアップ企業などの本県をフィールドにした実証実験を支援してきましたが、令和6年度からは、県内でのいち早い社会実装も支援していきます。

県は、事業分野や事業ステージを問わず、新たな価値の創出に向けた挑戦を全力で応援していきます。食や観光、産業など、多彩な分野での事業創出は若者の転入や雇用拡大につながり、地域経済を活性化させる大きな原動力となります。



## 富士北麓地域をはじめ 県内各地の高付加価値化

富士北麓地域の実情把握や経済・交通・観光の将来予測などの調査を実施し、この地域の観光の在り方を中心とした新たなビジョンを策定します。同時に富士山登山鉄道の調査・検討を継続し、LRT以外の交通手段との比較検討も改めて実施します。

100年先を見据えた富士北麓地域のグランドデザインを描きながら、富士山にふさわしい観光エコシステムの実現に向けた検討を進め、地域の高付加価値化を目指します。

こうした取り組みは富士北麓地域にとどめることなく、県内各地に展開していきます。

八ヶ岳周辺では、小淵沢地域の振興に向けて、北杜市や民間企業などとともに振興検討委員会を立ち上げ、自然や文化・芸術などを活用した地域振興を図ります。峡南地域では、中部横断自動車道の利用者拡大が見込まれるため、道の駅富士川を活用して地域のブランド価値をPRし、消費の拡大や滞在時間を伸ばす仕掛けづくりを進めます。甲府地域では、盆地を一望できる眺望と豊かな自然を併せ持つ「武田の杜」の価値を磨き上げ、近隣の観光資源との相乗効果を生み出す方策を検討していきます。



本県が目指す「県民の皆さんが一人一人異なる幸福を得るために、自分の道を選び、歩を進めていける社会」。もしも、自分の選ぶ道に多彩な選択肢があったら、より豊かな暮らしを追求できるようになるでしょう。

そのために県は、全国、そして世界とつながり交流を深めます。それは例えば道路の開通であったり、また人々が集う環境を整えることでもあったり。多様な背景を持つさまざまな人が集い、互いの個性を尊重しながら交流することで「集合知」が発揮され、より良い選択肢を増やすことにつながるでしょう。県はできる限り多くの、多彩で豊かな選択肢を県民の皆さんに提供します。

# 県民全ての可能性に道を拓く







CUUの講座を受講する働き手の方々(令和6年2月)

経験豊富な講師陣が、実践的なスキルを丁寧に指導しています。リスキリングは経営戦略の一つであり、企業が従業員に投資することでもたらされる効果について理解を促すことが不可欠であるため、令和6年度については、人材育成の重要性を学ぶ講座を重点的に開講していきます。また、他の教育研修機関の講座との連携や、企業とコラボレーションする講座を提供します。今年度から本格稼働するCUUにご期待ください。

キャリアアップ・ユニバーシティ講座の詳細はこちらから



キャリアアップ・ユニバーシティ講座の  
伴走支援

CUUの最大の魅力は、受講の前後にキャリアコンサルタントや講師が伴走支援することです。キャリアコンサルタントは、受講生の職務経験や学びの履歴、キャリアに関する希望などを踏まえながら今後必要となるスキルやノウハウの提案などを行います。受講後、講座で学んだ知識と技術が職場で活用されるよう、キャリアコンサルタントや講師が継続的にサポートします。また、受講生同士の

つながりも重視し、対面やオンラインで交流する場を用意しています。企業の経営者や人事担当者向けには、課題解決に必要な人物像の提案、従業員の育成計画についてサポートします。



スキルアップを起点に賃金増へ

県は、全ての県民が互いに価値と豊かさを育み分かち合う「豊かさ共創社会」の実現を目指しています。これに向けた起点となるのが、働き手のスキルアップです。

従業員の能力が向上(スキルアップ)することで生産性が上がり、企業の収益が増加(収益アップ)します。そして、得られた利益が企業から従業員へ賃金

豊かさ共創社会に向けた学びの場  
「やまなしキャリアアップ・ユニバーシティ」開講！



やまなしキャリアアップ・ユニバーシティ

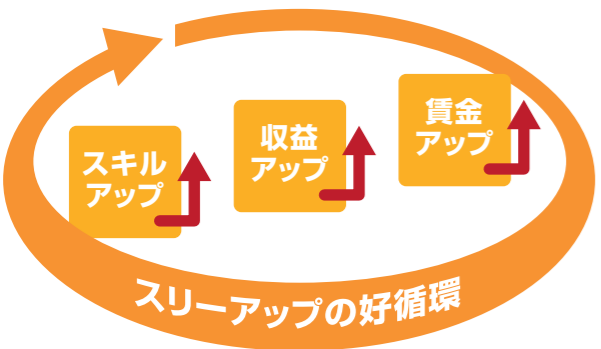
県内で働く方や求職中の方のリスキリング拠点「やまなしキャリアアップ・ユニバーシティ(CUU)」が今年1月に開講しました。CUUは働き手の皆さんが確かな成長を手に入れ、企業の課題解決へとつながるよう、講座を提供するだけでなく受講の動機付けから修了後のフォローにも力を入れていきます。1月から開いた講座には定員を上回る67名が参加。日頃それぞれの企業で働いている方が集い、学び合い、共感し、互いに刺激を与えながら、共に成長した仲間として巣立っていききました。CUUは、山梨のビジネスシーンをリードする人材の出会い・交流のきっかけとなる場でもあります。

CUUでリスキリング

リスキリングとは主に、企業の成長や課題解決のため、従業員に必要となるスキルを獲得してもらうことを指します。個人が自発的に行うリカレント教育(学び直し)、生涯学習、自己啓発などと異なり、企業が主体となって従業員に対して行うものです。CUUは、このリスキリングに関する講座情報の収集・周知、講座の運営、相談支援などを一元的に提供する場です。

CUUでは、県内で提供されているリスキリングに役立つ講座情報を入手できます。従業員にスキルアップとして還元(賃金アップ)されます。県はこれを「スリーアップの好循環」と名付け、多くの県内企業に参画を促しています。

スリーアップが県内に浸透すると、優れた能力を持った人材が増え、そのような人材を抱える企業は成長を続けることができ、働き手の賃金上昇へとつながっていきます。企業も人も将来にわたって安定した収益・収入が期待できることから、企業は設備投資や人材投資に積極的になり、働き手は安心して家庭を築き、子育てを育むことができるようになります。こうして本県は、県内経済が発展し県民が豊かさを実感する、魅力的な地となります。



「どこで学んでもらえばいいんだろう」「どのような講座があるんだろう」と悩んでいる経営者の方々の役に立ちます。情報提供にとどまらず、専門的な知識やスキルを習得できる独自の講座を開催。



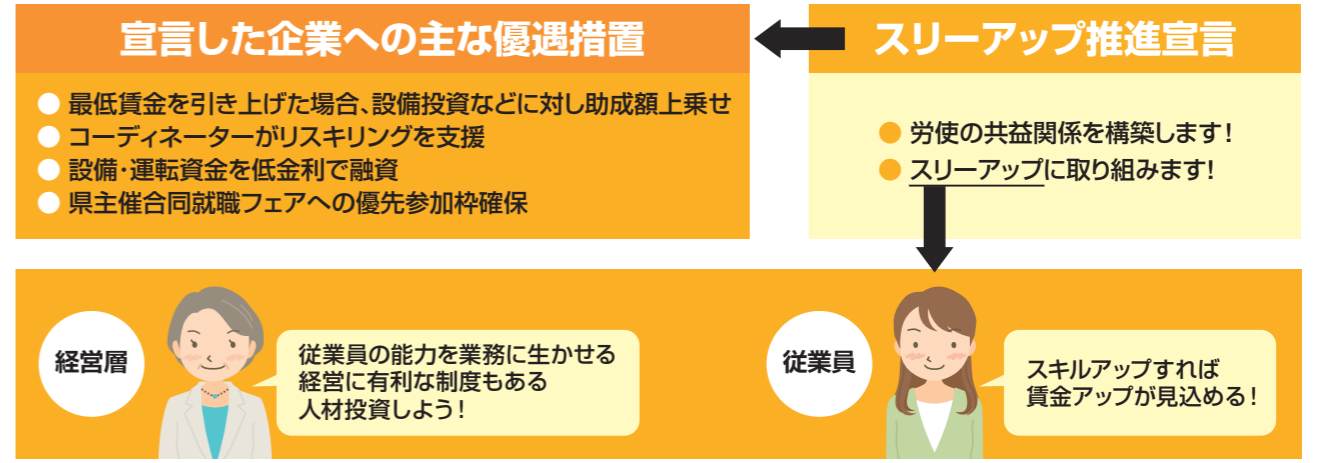
労使共にメリットを

働き手は「スキルアップが賃金の向上につながるのだろうか」、経営層は「従業員のスキルアップが会社の課題解決・成長にどのように生かされるのだろうか」などと、先が見通むことを躊躇(ちゅうちゆ)してしまうかもしれません。そこで県は、働き手に対しては「個々の能力が上がれば企業は賃金を上げてくれますよ。経営者も応援してくれるので安心して下さい」、経営層に対しては「従業員のスキルアップが事業に生かされるよう支援しますよ。賃上げなどに取り組みば優遇措置も用意していますよ」というように、それぞれの立場からメリットを感じ一歩を踏み出せるよう支援していきます。具体的には、賃金アップを含めたスリーアップに取り組むことを企業に宣言してもらい、その企業に対し、経営に有利な補助金や融資制度を活用できる制度を設けています。

従業員と経営層(労使)が手を取り合い同じ方向を向いて収益アップ、賃金アップに取り組むことも重要であることから、両者が共通の理解を持つ場や、従業員の意見や要望をくみ取る機会を設けることなどにより、



労使が共に利益を生みそれを互いに享受する関係（共益関係）の構築を



推進しています。

こうした取り組みを足掛かりに、多くの働き手・企業の皆さんにスリーアップの運動に参画いただき、スキルアップが業務に生かされ賃金上昇が実現した事例や、企業の収益増につながった事例を蓄積し周知することで、全県へ波及させていきます。

**企業や働き手と共に検討重ね**

CUU開講に至るまで、県はさまざまな関係者と議論を重ねてきました。

労働団体、経済団体、教育機関などが一堂に会する「豊かさ共創会議」を令和4年5月に設置し、出席者からの意見を踏まえ翌年3月にリスキリング拠点を整備する方針や課題に対する具体的なアクションを盛り込んだ「キャリアアップ・ユニバーシティ構想」を策定しました。

令和5年度には「豊かさ共創フォーラム」と「豊かさ共創スリーアップ推進協議会」を設置。フォーラムは、県内企業・団体や有識者で構成され、CUUの運営方針を決定するほか、働き手の能力開発の方向性と環境づくりをデザインしていきます。推進協議会は、県内企業が主体の組織で、スリーアップを普及していくとともに、参画企業間の情報共有・交流を

促します。フォーラムへ提言を行うため、各企業の意見を集約する役割も担います。昨年10月に17社からスタートした推進協議会は、現在200を超える企業が参加しています。

フォーラムと推進協議会はお互いの状況を共有し、構想の実現という共通の目的に向け取り組んでいきます。実行段階の当初は、CUUの講座やカリキュラムなどの充実と、スリーアップ推進宣言を行う企業の増加を図ります。将来的には、CUUを土台にスリーアップを循環させていくことが県内企業にとって当たり前・常識となり、自らの意思でリスキリング、収益向上、賃金上昇を生み出すと事業戦略を練り実行していく企業が多数出現する社会を目指していきます。



豊かさ共創フォーラムでCUUの運営について議論する出席者（令和6年2月）



**経営者としての経験を生かし豊かさ共創社会実現へ尽力**

豊かさ共創フォーラムの委員としてCUU立ち上げに携わった、株式会社ササキ代表取締役の佐々木啓二さんに、社内での人材教育の取り組みやCUUの展望などについて伺いました。



株式会社ササキ 代表取締役 佐々木 啓二さん

**一人の成長が未来を切り開く**

弊社では常に、社員一人一人が成長し、その成長が会社の利益につながっていくと信じて続けてきました。現在、社内ユニバーシティをつくろうとしていて、既存のOJTとは別に国家資格である電子機器組立て技能士の1級や特級を目指す教育プログラムを提供する予定です。社員としても成長を実感できることで満足度が高まり、仕事のモチベーションにつながります。

**中小企業が山梨の魅力さをさらに高める**

CUUの先行講座には社員も参加しました。スキルの習得だけでなく、異業種の方々が実践しているさまざまな事例を聞くことができ、それを持ち帰って社内でも活用できるという点が非常に良いと思います。

経営者の目線として、中小企業にターゲットを絞って確実に底上げしていくというスリーアップのビジョンはすごく良いと感じました。ただ、従業員が少ない企業の場合、一人を学びに行かせるだけで通常業務が厳しくなる。そんな中でもいざ会社で成果として返ってくるという想定ができること、背中を押されやすくなる。まずは、CUUで学んだ受講者がそれぞれの会社での業務に活かされた、と



株式会社ササキの社員の皆さん

いう成功例が広まり、感化される経営者が増えて欲しいです。

CUUのような取り組みは他県でも例はないようなので、成功を収めて全国に波及し「最初に山梨県が始めたんだよね」と言われるようになったら最高ですよ。そこは、フォーラムの委員として、他のメンバーと一緒に盛り上げていきます。

山梨は、東京圏に隣接し、富士山という世界的なコンテンツがあるなど元来高いポテンシャルを持っている県です。県内の中小企業がスリーアップで底力を付けて産業界全体を活性化させ、山梨の魅力がさらに高まることを期待します。

**受講生の声**

**ホスピタリティ・共感力講座受講**

会社からCUUの受講者として選出されたときは、まだまだ若手の私で大丈夫だろうかと思いましたが、「いい機会かもしれない」と受講を決意しました。

講座の内容は実践的で、あいさつや笑顔について学んだときには自分を見直すきっかけになり、職場に戻ってから、明るいあいさつと雰囲気づくりを心がけるようになりました。

参加者の中には私よりもベテランの方が多くいらっしゃるので、多様な考えを聞ける貴重な場です。また、普段聞かれないような他業種の方々のつながりができるのも良いところです。この先の社会人生活にきっと役立つと思うので、ぜひ若い方にも受講して欲しいです。



株式会社早野組 総務本部総務部 齋藤 琴和さん





昭和61年の「かいじ国体」開会式で入場行進する山梨県選手団

# スポーツの力で豊かさ創造 山梨をもっと輝く未来へ

国内最大のスポーツの祭典である国民スポーツ大会（国スポ）・全国障害者スポーツ大会（全スポ）が、令和14年に山梨県で開催されることが承認されました。本県での開催は昭和61年の「かいじ国体」・「ふれあいのかいじ国体」以来46年ぶりです。

当時とは社会情勢が大きく異なる中で大会を運営していくための県の方針のほか、スポーツで地域を活性化するための取り組みを紹介します。

## 「スポーツだけじゃない？」 国スポ・全スポ開催の意義

「運動は苦手だし、スポーツの祭典なんて自分には関係ない」と思っているあなた。いえいえ、実は国スポ・全スポ開催の効果はスポーツの振興だけにとどまりません。県では令和14年の第86回国スポ・第31回全スポの招致を目指し、有識者から幅広く意見を聴くため「新しい国スポ・全スポあり方検討懇話会」を昨年2月に設置し、3回にわたり議論を重ねてきました。

懇話会では、国スポ・全スポの開催が未来を担う子どもにも多くの夢や希望を与え、スポーツへの関心が高まって県民の健康増進につながるほか、パラスポーツへの理解が深まって共生社会の実現に近づいてきました。



スポーツ庁で室伏広治長官(右)に開催要望書を手渡す長崎知事(左) (令和5年7月)

期待に満ちた国スポ・全スポの開催。5月に懇話会から県に報告書が提出されると、県議会で決議が行われ、日本スポーツ協会及びスポーツ庁への開催要望書の提出を経た8月、ついに県内開催が承認されたのです。

## 国スポ・全スポの一体的な開催や 自治体の負担軽減に向けて

昨年11月に準備委員会の設立総会が開かれ、国スポ・全スポの開催基本方針が決定されました。同方針では、懇話会の報告書を踏まえた実施目標として「スポーツのチカラを生かした県民の豊かさ創出」「次世代につながるスポーツ振興」「共生社会の実現」「持続可能な大会運営の実現」の4項目を挙げています。県ではこ



第86回国スポ・第31回全スポの準備委員会設立総会であいさつする長崎知事(令和5年11月)

の目標のもと、県民が身近にスポーツを楽しめる環境を整え、心と体の健康増進を一層図るほか、スポーツを楽しむ場としての本県の魅力を国内外に発信し、来訪者の増加による地域経済の活性化に結び付け、豊かな県民生活の創出を目指します。また「生きる力」を身に付ける重要な要素であるスポーツへの子ども関

心を高め、スポーツを始めるきっかけや環境づくりを進めながら、国内外で活躍する選手を育成していきます。

これまで間隔を空けて開催されてきた国スポ・全スポを一体的に開催することも検討します。障害の有無にかかわらず選手をはじめ多くの方々が、大会開催期間中に大いに交流を深めるとともに、それぞれの個性を理解し、そして認め合う契機になることで、共生社会の実現に一層近づくと期待できます。

さらに、開催自治体の多額の経費負担という大きな問題にも一石を投じます。将来に多大な負担を残さず次世代につなげるため、大会の大胆な簡素・効率化や新たな収入の確保に取り組みほか、民間施設も含めた既存施設を有効活用し、必要に応じて県外施設の利用も積極的に検討していきます。

開催に当たり課題はありますが、主催する県や市町村、競技団体など多様な主体が協働することで「集合知」を発揮し、後世に残る大会になったと評価されるよう進めていきます。県ではこれからも、スポーツを通じた共生社会の実現と持続可能な大会運営に向け、従来の手法にとらわれず、さまざまな実証を行いながら、

新たな時代にふさわしい大会モデルを構築することに積極果敢に挑戦していきます。

## 未来のトップアスリートを発掘！ 「甲斐人の一撃」

県では、国際大会や全国大会などで活躍し、猛者の集うスポーツ界に「会心の一撃」を与えることができる選手の発掘・育成を目指すプロジェクト「甲斐人の一撃」を実施していきます。令和6年度で3年目になるこのプロジェクトは、スポーツのさまざまなスキルを身に付けやすい年代である小学4年生を対象に、走力や敏しょう性、瞬発力などを確認する体力測定会からスタート。

体力測定会で選ばれた才能あふれる60人が、カヌー・レスリング・ラグビーなどの競技を楽しみながら、各競技団体のコーチから指導を受け、トップアスリートになるためスキル



体力測定会では次のステージに進む参加者が選考される



富士山をバックにVサインする未来のアスリートたち

アップを目指していきます。さらに、基礎的な体力・運動能力の向上を図りながら、自己分析・目標設定などの理解を深める基礎能力向上合宿や、保護者が子どもの栄養やメンタルをサポートするためのプログラムも実施。最終的には、子どもが自身に合った競技を選択し、各競技団体での強化を経て、アスリートとして羽ばたきます。

令和14年の国スポまであと8年。その舞台として世界に「甲斐人の一撃」を与える選手の登場が楽しみですね！

やまなし  
indepthでも  
「甲斐人の一撃」を  
紹介しています。  
詳しくはこちらから。





このため県では、県内で新たなスポーツイベントを企画する事業者に対して初年度の事業立ち上げを支援し、県内での継続開催につなげるとともに、地域や観光事業者と連携し、イベント開催による観光消費額のアップなどの経済効果を高める具体的な取り組みを進めています。地

サイクリングだけでなく山梨の魅力が堪能できるこのイベントは、また今年も秋頃に開催する予定です。

「サイクルアドベンチャー ツアー in 南アルプス」の動画を「やまなしスポーツエンジン」YouTubeチャンネルで公開中！  
詳しくはこちらから。



CYCLE ADVENTURE Tour in Minami-Alps

南アルプスエコパークの大自然と「サイクルアドベンチャー ツアー in 南アルプス」を楽しむ参加者(令和5年6月)



パラスポーツの体験を通じて障害やパラスポーツへの理解の深まりも期待できる

身近な地域でパラスポーツを楽しむために  
県では、年齢・性別・国籍、そして障害の有無を問わず、誰もが個性と能力を発揮し活躍できる共生社会の実現を目指しています。さまざまな背景を持つ方の議論から生み出される「集合知」は、社会の変化に柔軟に対応し持続的な地域社会をつくるために必要不可欠です。そのためには、障害のある方が参加しやすい

域資源が豊富な本県には、さらなるイベントを呼び込む余地が十分にあり、今後さまざまなファン層を有する多彩なイベントを県内各地に広げることが可能だと考えられます。

このほか、7種類のパラスポーツが楽しめる「パラスポーツやってみるじゃんフェスティバル」の開催や、知見のある職員の派遣により、市町村のパラスポーツ普及にも取り組んでいきます。

さらに、市町村や関係団体で構成する会議を設置してさまざまな情報共有を行うほか、専門性を高めていくための県の体制整備も検討します。

スポーツは日常生活に活力をもたらす原動力になります。県はこれからも、障害の有無にかかわらず、誰もがスポーツに参加し、楽しむことができる環境整備を進めていきます。

環境づくりも非常に重要で、スポーツの分野も例外ではありません。そこで県では、パラスポーツ活動や情報発信を行う拠点「やまなしパラスポーツセンター」の整備を進めています。既存のスポーツ施設は、障害のある方が実際にスポーツをしたくてもなかなか予約できず利用しにくいという声がありました。センターでは障害のある方の活動を支援するとともに、利用を優先することとで活動場所の不足を補います。令和6年度中の供用開始を予定しており、日本パラスポーツ協会が認定するパラスポーツセンターとしても登録される見込みです。

また、令和4年4月に創設された、スポーツと地域資源を掛け合わせて活性化を図る「やまなしスポーツエンジン」は、目指すべき姿へのけん引役として、県内のイベント・観光関連企業、大学、スポーツ関連団体が連携し、サイクルツーリズムの推進やアウトドアアクティビティの開発などに取り組んでいます。

この取り組みの一環として開催している「サイクルアドベンチャー ツアー in 南アルプス」は、日本で10力所登録されているユネスコエ

県では、スポーツを活用して収益を生み出すことによって経済の発展につなげるため、令和3年3月にスポーツ成長産業化戦略を策定しました。ここでは目指すべき姿として「スポーツで稼げる県」を掲げ、観光客増加による県内経済活性化と新たな関連ビジネスの集積・拡大を進めることにしています。

スポーツを体育や競技だけの視点で捉えるのはもったいないかもしれません。なぜなら、スポーツには地域を活性化するビジネス資源としても大きな魅力と可能性があるからです。

スポーツで稼ぐ！  
やまなしスポーツエンジン



鳴沢村活き活き広場

ちょっとトレーニングしていきませんか？  
コロナ禍でのスポーツ大会やイベントの中止、また外出自粛などの理由で体を動かす機会が減ったと感じている方も少なくないのではないのでしょうか？  
ちょっとそこまで行くついでに軽く運動できたら…。県が推進する「ちょいトレ」プロジェクトは、こんな思いから始まりました。運動習慣から遠ざかった人でも気軽に運動を楽しむきっかけになるよう、小瀬スポーツ公園（甲府市）や森林公園金川の森（笛吹市）などの県立公園のほか、17の市町村立公園にも簡易な健康器具を設置しています。ぜひご利用ください。

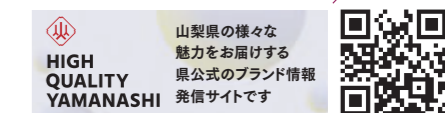


令和4年にリニューアルしたメイン会場の広河原山荘周辺では、地域の生産者と飲食店がタッグを組み、趣向を凝らした地産地消のフードやドリンクが提供されるほか、テントサウナや焚き火、ヒーリング・ヨガ、トレッキングなどを楽しみながら、大自然の中で特別な滞在時間を過ごすことができます。

コパークのひとつである南アルプスエコパークの絶景の中、年間を通じて一般車両が通行できない県営南アルプス林道（夜叉神―広河原）でサイクリングを満喫できるイベント。



ウェブでも山梨の魅力を発信中!



# 富士の介 × 美食

## 上質な食材の活用進む

県が開発したオリジナルサーモン「富士の介」の優れた食味が多くの料理人に認められ、美食への活用が進んでいます。料理人の匠の技と創作力で、上質な食材のクオリティがさらに上がる！  
 高品質の「富士の介」を養殖する生産者とその素材のうまみを最大限に引き出そうと腕を振るう料理人の姿を紹介します。



県が開発した「富士の介」



焼物 富士の介 コンフィ



焼浸し、おかき揚げ、マリネ、紅葉玉子醤油漬けなど



椀 富士の介 潮汁仕立て



造り 富士の介 柿昆布

### 丹精込めて富士の介を生産

富士の介はキングサーモンとニジマスを掛け合わせた山梨県のオリジナルサーモン。きめ細かい身質やほどよくなった上品な脂、豊かなうまみ特徴で食べやすさが魅力だ。

富士の介は平成19年に県水産技術センター忍野支所で実用化に向けた試験を開始し、平成28年に水産庁から養殖魚としての利用が承認された。令和元年の出荷を皮切りに、今では国内外に流通している。県水産技術センターが生産した卵と、加熱加工された安全なエサで飼育し、出荷時の肉色や鮮度保持の方法などの基準を満たしたものが富士の介として出荷されている。

山梨は「天然の水がめ」と呼ばれる名水の地で、豊かで清らかな水を活用し、各地で富士の介、ニジマスなどさまざまな魚が養殖されている。

富士の介の生産者によると、デリケートな魚であることから、やさしく丁寧に育てる必要があるという。飼料選別に気を遣い、薬剤を極力使わない養殖にこだわる者もいる。天候や気温に応じて水質をコントロールし、生育状況によって飼料の量を調整するなど、おいしい富士の介を消費者に届け

ようと生産者は日々奮闘する。

### 県産食材を使ったメニューを 美食顧問が絶賛

令和5年10月には、県産食材を使った美食体験ツアーが開かれた。ホテル鐘山苑（富士吉田市）で富士の介を使った特別メニューが提供された。

調理を手がけたホテル鐘山苑の調理部統括部長・宮下裕一さんは富士の介について「身がしっかりとっていて大きい。臭みやクセもなく、食べてみても口になまみが広がりました。調理のバリエーションに可能性を感じたので、いろんな味を楽しんでもらおうと思いました」と語る。

その言葉どおり、焼き物といった和食テイストに加え、コンフィやマリネ、オリーブオイルで食べるカルパッチョ風の柿昆布メなど洋風テイストも用意した。味がクリアでうまみが豊富な、富士の介の食材としての幅を最大限に生かしている。

美食体験には、県の美食顧問・齋藤孝司さんも参加し「富士の介は味がとてもクリアで食べごたえがあり、いろんな食べ方を楽しめた。今日は実際に来てよかったです。もっと多くの人に知ってもらいたいですね」と満げに話した。

美食顧問とは、県が農畜水産物のブランド強化を図るために設置したもの。その第1号として、レストラン格付け本「ミシュランガイド東京」で9年連続三つ星を獲得した「鮎さითou（東京都港区）」の店主・齋藤さんが委嘱されている。



養殖場を視察する齋藤さん

### 最後の仕上げは料理人 地元の食材だからこそ、 おいしく届けたい

オリジナルサーモンのブランド化を進める行政、丹精込めて飼育する生産者、そのバトンを最後に受け取るのは料理人だ。

宮下さんもその使命を感じている。「皆さまが、それぞれできることを尽力されて、出来上がった食材です。素材を吟味し、そのおいしさを引き出すように考えるのももちろん、お客さまに食べていただく順番やどんな味つけでうまみを伝えるかにも気



特別メニューを紹介する宮下さん

を配りました」と語る。和洋を折衷させたバラエティに富んだメニューを創作し、参加者を最後まで楽しませた。

地元の食材の良さはよく知っている。だからこそ「山梨の食材や料理ってこんなにおいしいんだ、来てよかったなあ、また来たいなあ」と思ってもらいたいと願いながら厨房に立つ。山梨県は県産の豊かな食材を使った高付加価値化や地域活性化を目指している。県内の飲食店や宿泊施設が県産食材を使用して創作した特別メニューと県産酒とを一緒に堪能できる「やまなし美酒・美食マンス」といった取り組みを続々と実施。東京から近く、リニア新幹線が開通するとさらにアクセスが向上することもあり、ブランド確立には熱が入る。行政や生産者、料理人のこだわりと努力が同じ方向を向き、山梨の価値を高めている。





県民の皆さんがデジタル社会の恩恵を受けられるように一緒に頑張っていきたいと思います。若い皆さんの活躍に期待しています。

DXで日常生活が便利になるだけでなく、新たなビジネスにもつながりそうですね。私たちが、山梨の豊かさにつながるDXを考えてみたいですね。

DXが幅広い世代に浸透していけば、みんながより働きやすくなりますね。

私が説明させていただきました！



DX・情報政策推進統括官  
副主査 島村 定春さん

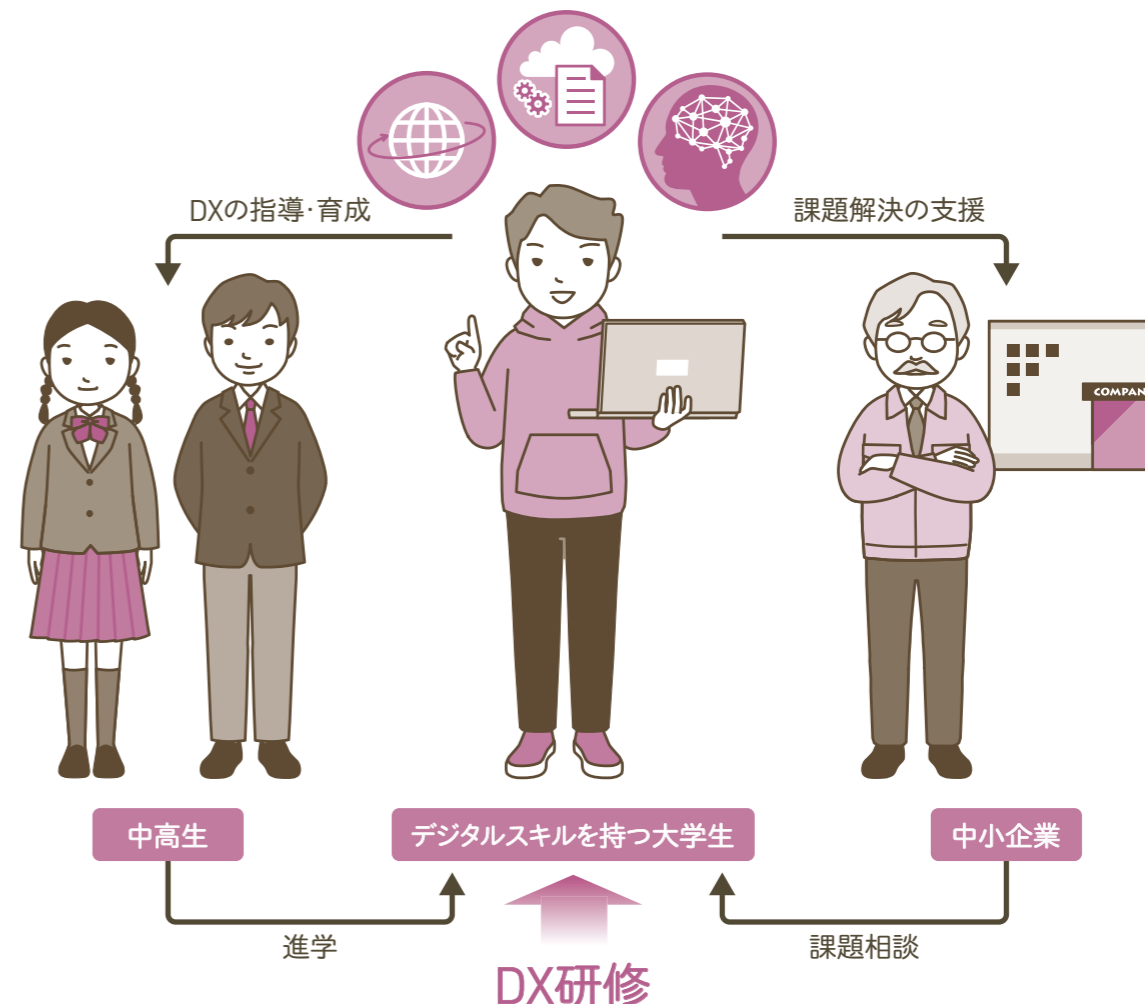
県民や事業者の皆さんが日常生活や仕事でデジタル技術を「普段使い」できるようにDXを推進しています。DXを知って学ぶための研修のほか、オープンデータの利活用推進、情報通信基盤の整備など、さまざまな施策を展開していきます。

CHECK!

「DX」(ディーエックス)とは？

DXとは、デジタルトランスフォーメーション(デジタル変革)の略。デジタル技術の浸透によって、人々の生活やビジネスがあらゆる面で良い方向に変化することを意味します。

県では、県民の皆さんにDXを身近に感じていただくため、「DX信玄くん」の動画を順次公開していきます。もしも武田信玄公が戦国時代にDXを活用したらどんな感じになるのかを楽しく紹介しています。ぜひご覧ください！



～DX人材育成エコシステム～  
大学生が主役となってDXを進める  
取り組みが始まるらしい？

最近、DXという言葉をよく聞くようになりました。DXはこれから私たちの生活やビジネスを大きく変えるといわれています。こうした中、県民誰もがデジタル技術を使いこなせるようになることを目指して、県ではさまざまな取り組みを進めているそうです。

今回は、私たち大学生が活躍できる「DX人材育成エコシステム」という取り組みが始まると聞いたので調べてみました。

山梨には中小企業が数多くありますが、その中にはデジタル技術の急激な発展に対応しきれない企業も多いそうです。このような企業でDXが進み、業務効率化や新たなサービスの創出が実現すれば、地域経済の大きな飛躍につながるかもしれません。しかし、デジタルに長けた人材の確保や資金の面で余裕のない中小企業からは、「DXへの一歩を踏み出しづらい」という声も聞かれます。

そこで県では、研修でデジタルスキルを身に付けた「大学生」に中心となってもらい、自分たちより若い中高生への指導・育成をしながら、中小企業の課題解決を支援する「DX人材育成エコシステム」づくりを進めていくそうです。

この取り組みのポイントは①大学生ならではの感性で、デジタルの使い方や進学して大学生になったときには、今度は教える側に回る②大学生ならではのアイデアを生かして、中小企業のホームページ作成やスマホアプリ、webツールの活用など、各企業のニーズに合わせた課題解決を支援することの二つです。

このように、「デジタル人材の育成」と「中小企業のDX支援」の両方をうまく進めていこうという山梨独自の先進的な取り組みだそうです。

私たち大学生にとっても、デジタル技術の習得や企業の課題解決の経験は、自分自身のスキルアップや就職活動時のアピールポイントにつながるので、ぜひ参加してみたいと思いました。

今後、この取り組みでDXが社会に浸透して、企業も人も成長しながら山梨が発展していく。そんな未来を私たちも一緒につくっていきましょう。

わたしたちがレポートを作成しました！



山梨県立大学 国際政策学部  
国際コミュニケーション学科  
3年 遠藤 美湖さん 2年 石井 陽菜さん

県民生活を豊かにするために、県民総DXを目指す取り組みが始まっているそうですね。

はい、県民の皆さんがデジタル技術を普段使いできることを目指しています。

そのためにどんなことをしていくんですか？

全ての県民を対象にした「DXマインド醸成研修」がすでに始まっています。これからは大学生の皆さんにDXの指導役として活躍していただく人材育成事業も始まります。

私たち大学生が主役なんですね。わくわくします。

最近、DXという言葉をよく聞くようになりました。DXはこれから私たちの生活やビジネスを大きく変えるといわれています。こうした中、県民誰もがデジタル技術を使いこなせるようになることを目指して、県ではさまざまな取り組みを進めているそうです。

今回は、私たち大学生が活躍できる「DX人材育成エコシステム」という取り組みが始まると聞いたので調べてみました。

山梨には中小企業が数多くありますが、その中にはデジタル技術の急激な発展に対応しきれない企業も多いそうです。このような企業でDXが進み、業務効率化や新たなサービスの創出が実現すれば、地域経済の大きな飛躍につながるかもしれません。しかし、デジタルに長けた人材の確保や資金の面で余裕のない中小企業からは、「DXへの一歩を踏み出しづらい」という声も聞かれます。

そこで県では、研修でデジタルスキルを身に付けた「大学生」に中心となってもらい、自分たちより若い中高生への指導・育成をしながら、中小企業の課題解決を支援する「DX人材育成エコシステム」づくりを進めていくそうです。

この取り組みのポイントは①大学生ならではの感性で、デジタルの使い方や進学して大学生になったときには、今度は教える側に回る②大学生ならではのアイデアを生かして、中小企業のホームページ作成やスマホアプリ、webツールの活用など、各企業のニーズに合わせた課題解決を支援することの二つです。

このように、「デジタル人材の育成」と「中小企業のDX支援」の両方をうまく進めていこうという山梨独自の先進的な取り組みだそうです。

私たち大学生にとっても、デジタル技術の習得や企業の課題解決の経験は、自分自身のスキルアップや就職活動時のアピールポイントにつながるので、ぜひ参加してみたいと思いました。

今後、この取り組みでDXが社会に浸透して、企業も人も成長しながら山梨が発展していく。そんな未来を私たちも一緒につくっていきましょう。



# 「スクーミーボード」を使って 誰もが欲しいモノを自分で生み出す 「eDIY」という世界観を広げたい!

株式会社スクーミー代表取締役CEO

**塩島 諒輔** RYOSUKE SHIOJIMA



## X もっと簡単にテクノロジーを使って やりたいコト・つくりたいモノをカタチに

プログラミングに精通していなくても、欲しいモノを自分でつくれる時代を創りたい。そんな思いから生まれた手のひらサイズのコンピュータ「スクーミーボード」。塾講師で活躍した塩島さんが、IT企業を立ち上げスクーミーボードを開発した背景には、教育者として生徒たちと向き合う中での「気付き」がありました。

「人に何かを教えることが好きで塾講師になりましたが、単に暗記させるのではなく原理なども教えていく指導法を実践するため、自ら塾を立ち上げることを決めました」

塾を運営していく中で、学校の勉強が社会の中で生かされていないと感じた塩島さん。

「高校生のうちから社会との関わりを持っておく必要があると考えました。そこで、イベントを生徒自らが企画し開催するなど、社会とつながる取り組みを授業の一環として実施しました。開催までの道のりは簡単ではありませんが、一つ一つの課題を見つけ解決するプロセスを体感してほしかったのです」

こうした課題解決型の授業を行う中で、工学系の大学を目指す生徒のためにプログラミングの授業を実施することにしました。

「私はプログラミングの経験がありませんでした。友達のエンジニアに協力してもらい、まずは『草刈りロボットを作ってみよう!』といった実践的なプログラムを実施しました。」

すると、楽しんで学ぶ高校生の姿を見た彼らの兄弟、特に小学生が興味を持ってくれたのです。もち

## X 生活を便利にする「eDIY」を世界へ

「スクーミーボードは単4電池1本で動く小さなコンピュータです。USBでパソコンと接続し、難しいコードを使わず指令を入力することができます。また、センサーやライトなどの機能を付けることもできます。離れた畑の温度をスマートフォンで確認したり、手を消毒せずに入室したら警告音が鳴ったりするシステムを開発できるなど、活用法は無尽大です。デジタル技術の専門知識がなくても、誰でも身近な困り事を解決するツールを開発できる点が特徴です。私たちはこれを「e(electrical)DIY(日曜大工)」と名付けました。」

最近では学校現場でプログラミングの授業をしています。そこではボードの使い方だけでなく、暮らしの中で身近な課題を見つけ出し解決策を考えるプロセスや、社会と関わりを持つ大切さも教えています」

こうした活動を通じて「eDIY」を世界へ広げ、山梨の企業として地元にも貢献していきたいと語る塩島さん。最後に若者に向けて、メッセージを送っていました。

「何かを自分で生み出す」ということに貪欲であってください。そこに価値があり、楽しさもあることを感じてほしいです。皆さんは今、何を生み出そうとしていますか?」



**塩島 諒輔** さん  
市川三郷町出身。  
株式会社スクーミー代表取締役CEO。  
学習塾の経営を経て、2020年に株式会社スクーミーを設立し、手のひらサイズのコンピュータ「スクーミーボード」を開発。



5センチ四方の手のひらサイズのコンピュータ「スクーミーボード」



プログラミングはコードを使わず視覚的に設定できる



高校の授業でスクーミーボードを活用

### スクーミーボードの活用事例

- 高齢者の転倒を音で知らせる装置
- 本棚が整理されていないときに通知する装置
- 消毒液の自動噴霧装置
- 畑の温度を測定する装置
- 間伐の可否を判断するため林の中の明るさを検知する装置



「僕は以前からこれしかない」と、「えっ？」  
 アルピニスト野口健氏と知事がガチ対談 富士山登山鉄道構想

山梨県は昨年11月から、富士山登山鉄道構想について地元への説明会を始めた。賛否両論が渦巻く中、やまなし in depth編集部は、世界の山を知り尽くす野口健さんと長崎幸太郎・山梨県知事の対談を企画した。1時間を超えた議論の行方は――。

◆富士山は1000点満点の山ではない

**知事** 野口さんの著書『世界遺産にされて富士山は泣いている』（2014年6月出版）を読んだのですが、大変ショックを受けました……。

**野口** 多くの日本人は、富士山は1000



点満点の山だから世界遺産に登録されたかと思っている。でも、本当は条件が満たさずでの登録で、出された宿題をクリアしなければ取り消しになるんだということの本に書いて伝えなかったんです。そのことを行政もメディアもちゃんと伝えて来なかったと思います。

**知事** まったく耳の痛いお話で……。

2013年、富士山が世界遺産に登録された際、イコモス（ユネスコ世界遺産委員会の諮問機関）は今後解決すべき課題として、「三つの宿題」を出した。その三つとは、

- 来訪者数の増加による  
オーバーツーリズムの解消
- 観光大型バスなどの排気ガスによる  
環境問題の改善
- 信仰の場である富士山の景観を  
ふさわしいものにする

だった。

**野口** 世界的に有名なヨーロッパの登山家が、「いろいろな国の山を登ったけど、



世界的アルピニスト野口さん(左)

富士山がいちばん汚かった」と話していました。登山家の間では、富士山は「汚い山」の代名詞になってしまっています。

◆タブーに踏み込んだ知事発言

**野口** 僕が非常に驚いたのは、長崎知事が「このままでは富士山は危機遺産リストに入ってしまう可能性がある」と発言したこと。僕はそのニュースをヒマラヤに登っているときにスマホで見つかりました。

**知事** えっ、どうしてですか。

**野口** だって、富士山の世界遺産登録が抹消されるかもしれないという話はタブー中のタブーじゃないですか。僕の知る限り、山梨県の知事でそういう話をされたのは長崎さんが初めてですよ。いままでの知事ではありえない発言！（笑）

**知事** 世界文化遺産になるということは、「必ず三つの宿題を解消します」という国際的なオブリゲーション（義務）を伴うものです。それなのに、何もやらないというのは、公約違反、ですから、なんとかしなければいけませんよね。

**野口** 僕は全ての山に入山料や入山規制が必要だとは思いません。ですが、富士山は特殊な山なので、国際基準で守っていく必要があるんじゃないでしょうか。

**知事** はい、入山料の徴収と入山規制は本格的にやろうと思っています。特に弾丸登山など危険な登山者がいるので、入山規制は喫緊の課題です。

◆「三つ」の登山鉄道構想の話に……

**知事** 入山規制など、すぐに取り組まないといけない対策を検討するのに加え、いま私たちは「富士山登山鉄道構想」を提案しています。三つの宿題を解決し、さらに富士山と周辺地域の価値を上げるという、少し長期的な視点に立ったアイデアです。

**野口** もちろん知っています。僕は以前



路面電車の軌道の下にケーブルを敷くなどしてインフラを整備する

山梨県とは別の組織で、登山鉄道を検討するグループのメンバーだったことがあり、富士山を守るためには鉄道以外に方法はないと思っていました。

◆知事室の空気が少し緩み始めた

**野口** はい。道路に車両を通したままでは、入山料を取っても来訪者を制限できないじゃないですか。でも登山鉄道なら列車の本数によって来訪者数をコントロールできる。

**知事** そうなんです。スバルラインを車が通らなくなれば五合目にある広大な駐車場も必要ないので、コンクリートを埋め戻して、あるべき植生を回復させます。これで、景観問題も解決できます。



五合目を空撮したイメージ。コンクリート部分に植物を戻す

**野口** 五合目は電気と水がないので、トイレやゴミの問題など衛生的にもひどい状態です。これは改善されますか？

**知事** 登山鉄道構想を具現化するとき、軌道をつくるのと一緒に、電気や水などのインフラも整備するつもりです。

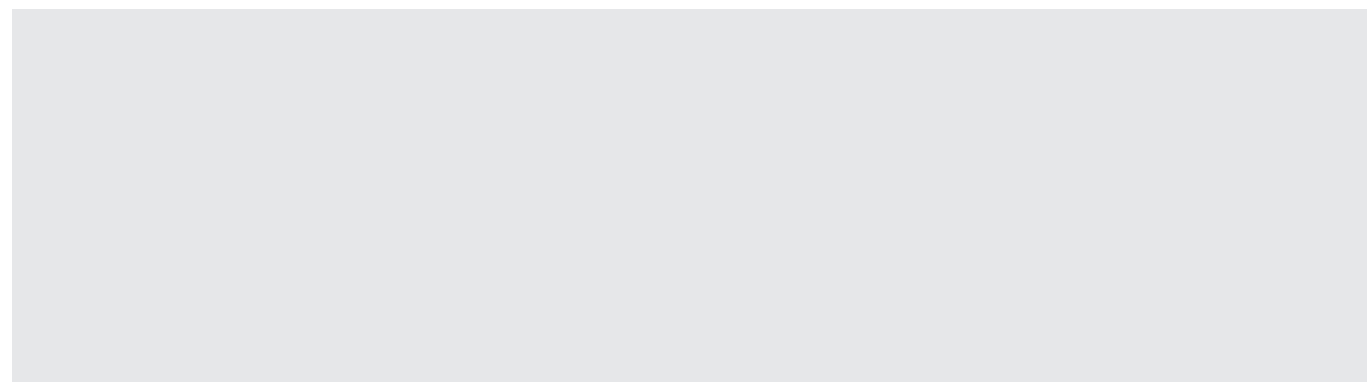
対談を見守っていた県職員が、登山鉄道構想を説明する資料を2人の間に置くと、野口さんは勢いよくページをめくり始めた……

続きはこちらから

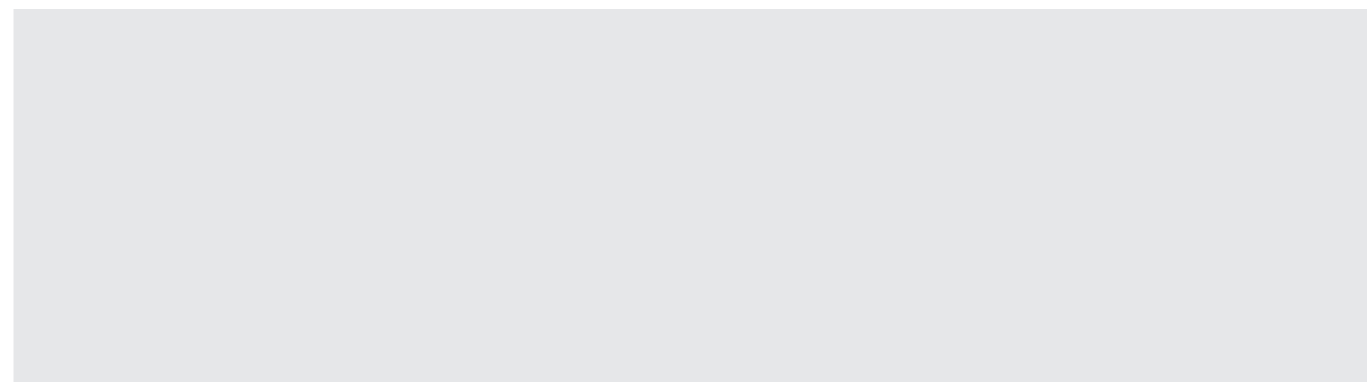


やまなし in depth

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。



ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。







商品提供:みさき食品



## アンケートに答えて応募しよう!

次の①～⑤とアンケートにご回答ください。応募は「はがき」または「応募フォーム」でお願いします。  
①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号

### ●アンケート

問1:今号の中で最も関心を持った内容とその理由は?  
問2:あなたにとって「豊かさ」とは何ですか?  
※いただいたご意見の一部を紹介させていただくことがあります。

### ●応募先

山梨県広聴広報グループ  
「ふれあい読者プレゼント」係  
〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1  
[応募フォームはこちら] <https://forms.office.com/r/6CFYdkLG83>



### ●締め切り

4月30日(火)(当日消印有効)  
賞品の発送をもって、当選発表に代えさせていただきます。個人情報や賞品の発送のほか、県からのお知らせなどのために、使用させていただくことがあります。

## 「カリカリうめ(1袋)」抽選で10名の方に!

「おいしい未来へ やまなし」については、  
県ホームページをご覧ください。

おいしい未来へ やまなし



多言語翻訳や音声読み上げに対応したデジタルブック

### カタログポケット



「ふれあい」の誌面をパソコン、スマートフォン、タブレットでそのまま  
ご覧いただけます。

《FUREAI》杂志的电子版可以在智能手机或者平板电脑客户端浏览。  
(中国語・簡)

You can now read pages from Fureai directly on your  
smartphone, tablet, and other devices. (英語)

スマートフォンで「ふれあい」をもっと身近に

### スマートフォン専用サイト



「ふれあい」の誌面をスマートフォン専用の  
ウェブサイトでもご覧いただけます。言語切  
り替えが可能で、ページが縦と横にスク  
ロール表示されるので、スマートフォンで読  
みやすくなっています。



### 県政情報発信中!

県ホームページ	やまなし in depth	ハイクオリティやまなし	LINE	Facebook	X (旧Twitter)	YouTube	広報番組

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。

